

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	すてっぴ天久2		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 14日	～	令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 15名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 6日	～	令和8年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心してご利用いただけるよう、安全面に配慮した運営を心がけています。	安全確保を最優先に位置づけ、職員間での情報共有や環境点検、動線への配慮、個々の特性に応じた見守りを徹底しています。また、事故防止に向けた取り組みを継続して行い、利用児が安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいます。	利用者の多様なニーズに対応できるよう、研修等を通して職員のスキル向上に取り組んでいます。また、バリアフリー面に課題があるため、環境整備のさらなる強化について検討していきたいと考えています。
2	職員間で意識や支援方法の統一を図り、共通の視点で支援に取り組める体制を整えています。	朝礼では活動内容の共有や事前の相談を行い、終礼では一日の活動を振り返って報告しています。また、定例会議に加えて必要に応じて臨時の話し合いを行い、意見交換を通して職員間の意思統一を図っています。	今後も利用者に寄り添った支援を行うため、職員同士が円滑に意思疎通できる環境づくりを進めていきます。ボトムダウンではなくボトムアップを基本とした組織づくりを目指し、職員の意見や提案を活かせる体制を整えていきます。
3	毎月の活動プログラムは、利用者の特性やニーズに合わせて決定しています。工場見学などの地域資源を積極的に活用し、日常では得がたい体験の機会を提供しています。	毎月、翌月の活動プログラムについて話し合いを行い、その日の利用予定者に合わせた療育内容を検討しています。伝統工芸品にふれる体験や工場見学など、日常では得がたい経験を提供するため、地域資源を積極的に活用しています。	療育内容が固定化しないよう、さまざまなツールの導入を検討していきます。期間限定イベントへの参加など、体験先が固定化しないように情報収集を行い、多様な体験機会を提供できるよう努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子供たちとの交流の機会が十分に確保できておらず、今後の課題となっています。	地域の公園や博物館などの地域資源は定期的に利用していますが、交流時の安全面でのリスクが大きいと判断しているため、事業所に地域の子供たちを招いたり、地域イベントへ参加したりといった積極的な交流は現状行えていません。	人数の調整や会場の環境づくりなど、安全面のリスクを減らすための工夫を考えながら、地域交流ができる環境を少しずつ整えていきます。
2	ペアレントトレーニングや地域イベントの情報共有が十分に行えていない部分があり、今後はより分かりやすくお伝えできるよう工夫していきたいと考えています。	研修やイベントなどに関しては、現状では受動的な情報提供にとどまっており、今後はより分かりやすく伝えられる方法を工夫していきたいと考えています。	保護者も参加できるイベントや研修の情報を積極的に集め、LINEなどを活用しながら、保護者の皆さまへ分かりやすくお伝えしていきたいと考えています。
3	保護者同士が交流できる場の提供が十分に行えていないことを、事業所の弱みとして受け止めています。	日時や会場の設定、駐車場の確保など、解決すべき点が多く、実施に向けて調整が必要な状況であることを課題の要因として受け止めています。	参観日と合わせて実施するなど、参加しやすい日程を検討し、年間行事として位置付けることで、早めの計画づくりを進めていきたいと考えています。